



人間牧場主・年輪塾々長
若松 進一

アニメ等のコンテンツ を活用した地域活性化 の可能性

私の町（伊予市双海町）出身の漫画家にいづみかつき（本名出海克樹）さんという東京で活躍している若い人がいます。聞けば彼は地元の農業高校在学中は特に進路の希望もなく、夢中になつて漫画を読んでいたことから、進路相談で「漫画家になりたい」と発言したところ、先生の紹介で同郷出身の川島正さんに出会いました。そのことがきっかけで漫画家を志すようになりました。高校卒業後は地元愛媛の専門学校に進学し、ひたすら漫画を画き続ける日々を送り、在学中に作品が入賞するなどして、見事プロデビューを果たすことができました。

専門学校を卒業すると同時に上京し、アシスタントを経て「月間少年チャンピ

オン」2011年5月号より「おい!!オバさん」（秋田書店）に連載デビューを果たしました。この作品は既に単行本として12巻も発行されています。その後自

作の「部活、好きじゃな
きやダメです
か？」は日本
テレビでドラ
マ化され大き
な反響を呼び
ました。

現代の子ど
もは漫画を読
むのが大好き
で、テレビアニメなどの影響もあつて、



中には将来「漫画家になりたい」という夢を持っている子どもも少なくありません。親は漫画を夢中になつて読んでいる子どもを見ると、「漫画ばかり読まず勉強をするように」と諭し、「漫画家になりたい」などと言おうものなら、「そんな夢のような話をするな。漫画で飯が食えるか!!」などと、訳も分からず叱りつけるのが落ちですが、子どもに及ぼす漫画の影響はかなり高いようです。

私は長年まちづくりに関わる仕事をし

ていて、全国の漫画やアニメによるまちづくりの実態を少しかじっていますが、鳥取県境港を「ゲゲゲの鬼太郎」で一躍有名にしたのは漫画家水木しげるであり、私もいささかなりともかわつた鳥取県北栄町のまちづくりも、同町出身の「名探偵コナン」で有名な漫画家青山剛昌なので、漫画はもう立派な地域資源なのです。

漫画は絵と文字で表現された静止的物語です。漫画が絵や文字であたかも聞こえたり動いたりするよう幾ら表現しても、そこには限界があつて、漫画で画いた絵を動かせ言葉や音や音楽を入れると、バーチャルながらリアルな世界が広がるのです。これを「アニメーション」、略称「アニメ」と言うのでしょうか、日本のアニメ産業から生み出される作品の数々は世界一と言われるほど素晴らしい、アカデミー賞にノミネートされるなど、世界中から高い評価を得ています。

漫画をアニメにするには、動物や形の少しずつ異なる原画を何枚も書き、一コマずつ撮影して連続させると、あたかも動いているように見えるという理屈は分かっていますが、一つの作品を仕上げる

のには、気の遠くなるような何万枚もの原画が必要で、動きに合わせてセリフや音・音楽を入れなければならぬのですから、幾ら製作過程でデジタルを使える時代になったとは言っても、この作業と製作費は中々大変なようです。

今年のNHK連続テレビ小説「なつぞら」は、偶然にもアニメと深く関わった作品で、アニメの製作工程がよく分かる物語となっているので、簡単にあらすじを紹介しておきます。

「前略」昭和21年初夏、両親を戦争で失い戦災孤児となったヒロイン奥原なつが、生まれ育った東京から北海道十勝にやって来ました。亡き父の戦友柴田剛男が、なつを養女として育てることにしました。柴田の家は北陸からやって来た開拓移民の酪農家で、開拓精神あふれる一家と暮らすことになったなつは、山田天陽という名の同い年の少年と出会い、天陽から教えられた漫画映画『アニメ』の魅力に心奪われて行くのです。

その後、なつは絵を描く仕事に憧れるものの、養父剛男の父であり、柴田牧場のオーナーである秦樹は自分の孫となつを結婚させることが望みでした。そんな中、戦後に生き別れになっていた兄の消

息がなつのもとに知らされました。

なつは兄を頼って上京することを決意、東京のアニメ制作会社へ就職が決まりました。東京で画家を目指す天陽と再会したなつは、草創期を迎えたばかりのアニメ業界で開拓史ながらの道を歩むようになるのです。――後略――

私も暇さえあれば毎日朝・昼の15分間、テレビで放映されているNHK連続テレビ小説「なつぞら」を見ながら、アニメについて色々なことを学ぶことができました。もしこの番組を見なかったら、私のような凡人には、どのような製作過程を経てアニメ映画が作られて行くのか殆ど分かりませんでした。

最近のまちづくりは、ゆるキャラなどのような漫画チックなパロディ手法が取り入れられ、スマホの普及を時代背景に様々なデジタルコンテンツを活用した取り組みが進んでいます。アニメコンテンツは製作費用が高いことから一般的には余り進んでいませんが、映像技術がかなり進化しているので、アニメを含めた映像作品をYouTubeなどのツールで流し、不特定多数の人の見える工夫が凝らされているようです。特にドローンを使った空撮技術の導入によって格段にグ

レードアップし、配信エリアも無制限に広く、配信カウント確認も確実なことから、これからは今まで以上にアニメ等のコンテンツを活用した地域活性化の可能性が広がるものと期待されているようです。

夢の夢でしょうが、「そんなことをしたって意味がない」との反対の声を押し切って、JR下灘駅のプラットホームで夕焼けコンサートを開き、夕日のまちづくりをやったように、もし可能であれば私の町出身の漫画家「いづみかつき」さんに、双海物語の漫画を描いてもらい、アニメ作品に仕上げ、YouTubeで流してみたいなあと思ったりしています。

「将来は 何になりたい 聞いたなら
漫画家になりたい 子ども結構」
「漫画では 飯が食べない 言う親に
飯は茶碗と 箸で食べると」
「朝と昼 連続テレビ 小説を
見ながらアニメ できる行程」
「夢の夢 町出身の 漫画家に
描いてもらって アニメ作ろう」
(若松進一の実体験)